

資料 5

今治市人口ビジョン（案）について



II 人口ビジョンについて

01 なぜ、人口ビジョンが必要なのか？

総合計画・総合戦略の策定には、今後目指すべき人口の目標値である将来人口推計を示した人口ビジョンが基礎資料として必要となる。

地方自治体は、国が示す「地方人口ビジョンの策定のための手引き」を基に、地域の実情に応じた分析を行い将来推計人口を算出する。

02 自治体の将来人口推計の算出方法

社人研推計準拠 or 自治体が独自推計

→**今治市は独自推計**

03 今治市の独自推計の算出方法

将来の**出生率**と**移動率**を今治市独自に設定し、将来人口推計を算出する。

今治市における既婚者・未婚者割合や結婚・出産に関する希望の調査結果から希望出生率を算出すると、1.60となります
中期的な目標として、合計特殊出生率1.60を目指します

	項目	全国	今治市	算出方法
①	既婚者割合 (20～44歳)	50.6%	54.0%	国勢調査(2020)より ※母数を既婚者・未婚者（死別・離別・不詳を除く）合計値とした場合
②	夫婦の予定子ども数 (20～44歳)	2.06人	1.88人	下記⑤の結果に、全国調査における20～44歳の理想子ども人数と20～44歳の予定子ども人数の比を乗じて算出
③	未婚者割合 (20～44歳)	49.4%	46.0%	国勢調査(2020)より ※母数を既婚者・未婚者（死別・離別・不詳を除く）合計値とした場合
④	未婚者の結婚希望割合 (20～44歳)	77.3%	66.8%	今治市における調査結果（18～29歳）の数値に、全国調査における20～29歳の婚姻希望割合と20～44歳の婚姻希望割合の比を乗じて算出
⑤	理想子ども数 (20～44歳)	2.21人	2.02人	今治市における調査結果（18～29歳）の数値に、全国調査における20～29歳の理想子ども人数と20～44歳の理想子ども人数の比を乗じて算出
⑥	離別等効果 (離死別再婚効果係数)	0.981		2010年、2015年、2020年の社人研推計における離死別再婚効果係数をもとに、2025年の離死別再婚効果係数を推計

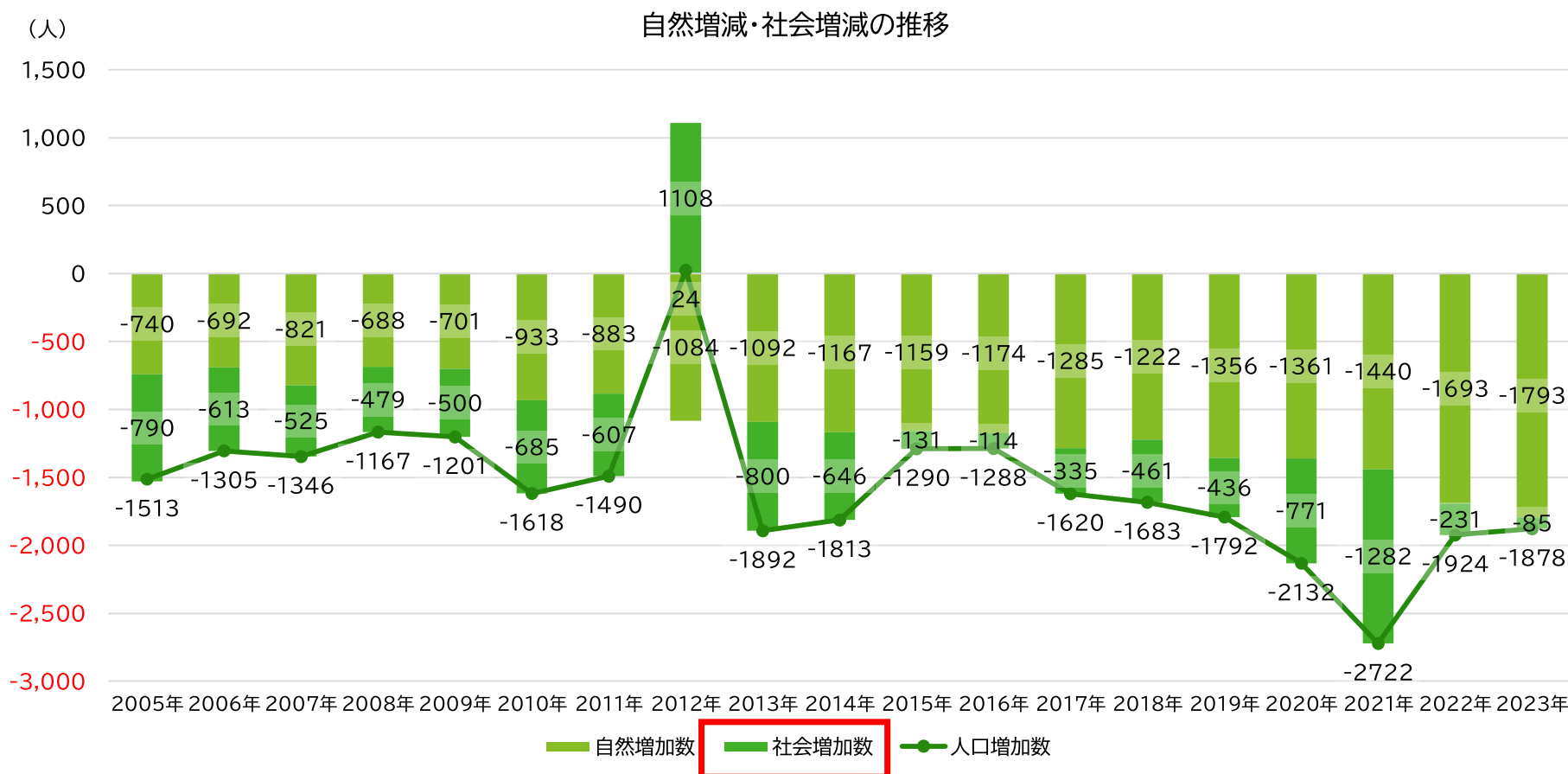
$$\{ (① \times ②) + (③ \times ④ \times ⑤) \} \times ⑥$$

= 1.60(今治市の希望出生率)

社会移動のシナリオ設定は、「社会動態の均衡」を目指した設定

社会移動のシナリオ 考え方

- 本市の移住施策や外国人労働者の増加により、社会減が改善されつつある。
- この流れを継続し、若年層・子育て世帯(0歳～44歳)の転入促進・転出抑制施策を推進し、2045年までに社会動態の均衡を目指した設定とする。



今治市が目指す人口推計のシナリオ

人口ビジョン シナリオ案

		パターンA 社人研推計準拠	パターンB パターンA + 出生率向上	パターンC パターンA + 出生率向上・移動均衡	独自推計
条件		【自然動態（出生率）】 ・ R5社人研推計準拠 【社会動態（移動率）】 ・ R5社人研推計準拠	【自然動態（出生率）】 ・ R17(2035)年までに合計特殊出生率が人口置換水準（2.07）まで上昇すると仮定 【社会動態（移動率）】 ・ R5社人研推計準拠	【自然動態（出生率）】 ・ R17(2035)年までに合計特殊出生率が人口置換水準（2.07）まで上昇すると仮定 【社会動態（移動率）】 ・ 移動(純移動率)がゼロ(均衡)で推移すると仮定。	【自然動態（出生率）】 ・ <u>合計特殊出生率がR27(2045)年までに1.60、R52(2070)年までに1.8 まで上昇するとして推計</u> 【社会動態（移動率）】 ・ 若年層・子育て世帯(0歳～44歳)の転入促進・転出抑制施策を推進し、2045年までに社会動態を均衡させる

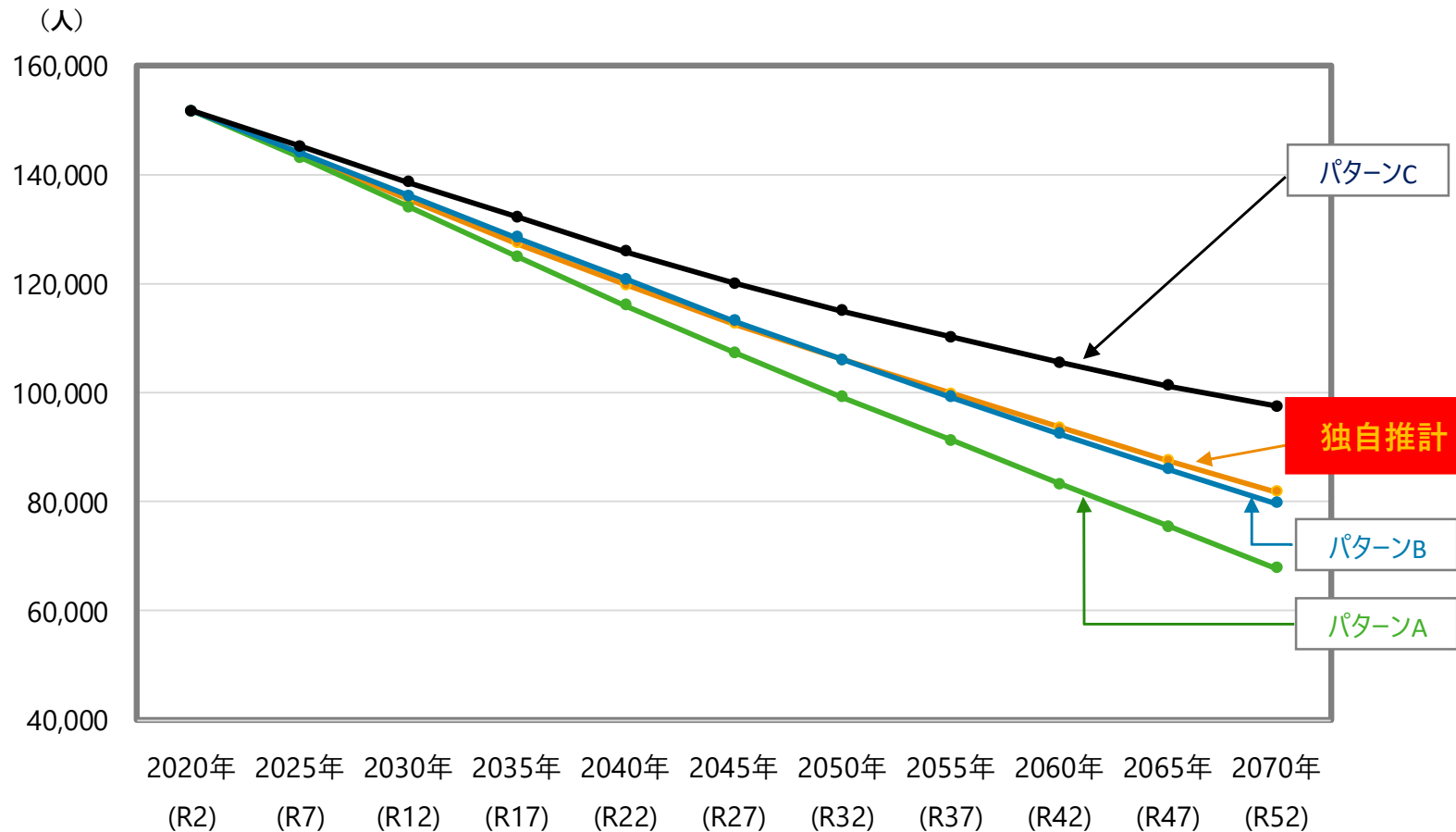
【参考】

今治市の2020年合計特殊出生率
⇒1.48

国の希望出生率
⇒1.8

本市の将来推計人口

人口推計結果比較



	2020年(R2)	2025年(R7)	2030年(R12)	2035年(R17)	2040年(R22)	2045年(R27)	2050年(R32)	2055年(R37)	2060年(R42)	2065年(R47)	2070年(R52)
独自推計（社会動態均衡を目指す）	151,672	143,756	135,479	127,458	119,805	112,618	106,091	99,812	93,596	87,535	81,788
パターンA（社人研推計準拠）	151,672	143,105	133,984	124,911	116,004	107,364	99,195	91,216	83,267	75,407	67,855
パターンB（出生率向上）	151,672	144,000	136,092	128,511	120,847	113,203	106,060	99,173	92,472	85,973	79,764
パターンC（出生率向上・移動均衡）	151,672	145,104	138,506	132,200	125,836	120,032	114,920	110,123	105,526	101,286	97,448